

袖ヶ浦市郷土博物館友の会・会報

友の会だより 第52号

発行 友の会事務局

袖ヶ浦市下新田 1133 番地

郷土博物館友の会

TEL:0438-63-0811

FAX:0438-63-3693

発行日:令和4年12月26日



郷土博物館は、昭和57年11月29日に開館し今年で40周年を迎えることが出来きました。これもひとえに、博物館友の会の皆様をはじめボランティアや市民の皆様のご協力とご支援のおかげと存じます。開館からこれまでの間、様々な博物館活動を実施してまいりましたが、博物館友の会のご協力は、必要不可欠でした。

博物館開館40周年
『友の会を良きパートナーとして』

館長 西原 崇浩

記憶に新しいところではミュージアム・フェスティバルでのご協力の他、旧進藤家住宅のリニューアルオープンイベントを企

第25回ミュージアム・フェスティバル
開催・11月26日(土)～27日(日)

11月26日(土) 27日(日) 両日にかけて3年ぶりに第25回ミュージアム・フェスティバルが開催された。初日は、午前中雨に見舞われ、あいにくの天気でしたが袖ヶ浦高校・吹奏楽部による演奏が力強く鳴り響き、雨模様を吹き飛ばしたのか午後から天気が回復して、来場者が徐々に増えてきた。翌27日(日)は、朝から抜けるような天気恵まれ風もなく穏やかな一日だ

画して頂いた様にまさに、博物館活動の実施団体であるとともに、良きパートナーでもありました。博物館友の会も令和6年には、発足40周年を迎えます。長きにわたる活動がさらに発展する事を祈念いたすとともに、これから博物館の良きパートナーとして、ご協力頂きますようお願い申し上げます。



つた。天気に誘われ多くの方々が来場され、どここのブースも賑わい、『後藤さんの皿回し』には、チビッコが集

まり、親子で挑戦し、『回った、回った』との歓声が上がり、『たたき染め』のブースからは、終日『カンカンカン』と軽快な音が鳴り響いていた。外の通りでは『まさるさんのシャボン玉』が、何連もつらなり空高く浮き、子ども達で大賑わいだった。受付前の通路では、野菜の即売会も行われた。又館内特別展示室では、学芸員による企画展『富士山』にまつわる展示解説会も行われた。

館内エントランスホールでは、友の会『仏像を学ぶ会』による仏像鉛筆画が展示され来館された方が足を止め、『古文書いろはの会』では、百人一首のくずし字を掲げた。お客様方からいくつかの質問などが寄せられ対応した。『機織りの会』、『土器作りの会』の体験会も大賑わいだった。博物館発表では、コロナ感染予防に十分留意しつつも、2日間で983名の来場があり全体的に、大変盛り上がりつつあった。

友の会各グループ活動報告

盆栽愛好会

秋季盆栽展

(10月28日～30日)

盆栽の会の活動として、今年度『秋季盆栽展』を10月28日～30日の三日間旧進藤家住宅にて開催しました。天候にも恵まれて432人もの大勢の方々が見に来られ、とても良い展示会が出来ました。

旧進藤家住宅での展示も今回で三回目となり、段々恒例になってきたようで、『前回見に来て今回も楽しみにして来た』と言う声が何人もの人から聞こえてきました。来場のお客様のそのような声が会の活動を後押しして頂いた思いで、『次回はおっと素晴らしい展示をしたいなあ!』と気合が入ります。熱心に盆栽の話を聞いてくれた若い人もいたので、こちらでも頑張つて、もっと勉強をして、日本の伝統文化である盆栽の魅力を多くの人に伝えて行く事を使命として盆栽会の活動をしていきます。次回の展示会を楽しみにして下さい。



旧進藤家住宅に飾られた盆栽

(代表 中村康司 記)

古文書いろはの会 芭蕉『奥の細道』 に憧れて日光へ

いろはの会で芭蕉の奥の細道原文を読み、いたく感動。少しでも芭蕉翁にあやかりたいと、先ず歩いて日光迄と思ひ定め、自宅から南千住旅立ちの碑を経

て奥の細道(日光街道)を歩き始めたのは、昨年11月文化の日。駅間リレー方式で1年がかり18回目にして日光駅へ到着。歩いた距離は約250kmでした。そこで感想を一つ二つ記してみたい。

① 先ず芭蕉の健脚ぶり芭蕉は、旅立ちの地より初

日に春日部に到着し3日目にして鹿沼へ達している。私の方は、鹿沼まで途中道草を含め8回の歩きを重ねている。

江戸当時の旅人の記録によれば東海道・江戸日本橋から京都三条大橋まで約492kmを13日から15日かけて歩いたそうです。一日33kmから38km位の距離を歩いた計算になります。

芭蕉は千住から鹿沼迄約110kmを3日で歩いたとの事で、一日平均37kmとなり当時の一般的な記録と同じ距離を歩いたようです。一方私は15kmから20kmと芭蕉には到底及ばない。芭蕉46才と私75才と年の差はあるが、当時と装備その他利便性で年齢差は、帳消しにしても、芭蕉の方がはるかに健脚です、脱帽します。



芭蕉も通過した草加松原の道

② 感動した市や町
*古河市では、市内の散策を観光ボランティアの方々に案内してもらった。

古河駅の中にある案内センターに事前予約しておいた。雪の殿様といわれる土井利位(としつら)公の雪の結晶を図案化したデザインが町の至る所に利用され、歴史博物館も見ごたえがあった。

*鹿沼市では、奥の細道で芭蕉がここに泊まったということを地域観光資源として、それを活用しての街づくりが進み、観光施設で芭蕉の木彫りが迎えてくれた。又全国に芭蕉に関連する町や市が37あるところで全国芭蕉サミットなるものを開催、連携しております。鹿沼の彫刻屋台展示館では、屋台の豪華さに当時の鹿沼の財力に驚いた。街道沿いの町を訪ねるいい機会にもなりました。(代表 今井久明 記)

何でも有り会 市内椎の森散策

10月4日(火)7名で市内『椎の森』をぶらり散歩した。湿地に生えているマ

コモの根元に肥大したマコモタケや斜面に小さな黄色いトンがり帽子のようなマルチバチシャノキの果実に歓声を上げました。



椎の森を散策

12月6日には、松戸市本土寺で紅葉を愛でます。さて来年には、どのような『なんでも有り』があるのか楽しみです。

今年は、博物館開館40周年で神々しい富士山関連の特別企画展、内房の富士講めぐり等講演会など興味深い企画がありました。今更ながら館の関係者のご努力に敬意を表します。市民学芸員の方々の熱意と活躍にも目を見開きます。多くの人、積極的な活動でますます盛り上がる事でしよう。

(代表 安孫子素子 記)

風の会

『隠居生活に
風揚げもいいなあ』

『御隠居さん』という名称は、人生を楽しむ立場の方のために作られた言葉だと思えます。富を求めず、権力をかざさず、人の悪口を言わず、ちよつと浮世離れた生活が出来る立場です。

そんな時に子どもの頃を思い出し風揚げなどは如何でしょうか。

子どもの頃、正月を迎える
と近くの畑で風揚げをした
ものです。現在では、そのよ
うな光景は見えませんが、も
のし爺さん婆さんが風揚げを
楽しんでる姿を、孫や子供
が見たら、『隠居生活に風揚
げもいいなあ』と思つてもら
えるのではないのでしょうか。



賑わう風作り（フェスティバルにて）

（会員 蜂須賀健二 記）

機織りの会 藍の葉を使って

万葉植物園の
藍の葉を使って
染めをしました。
藍の葉は、インジ
カンという物質
を持つています。
これが酸素と反
応しインジゴ染
料になり青色に
染まります。
藍の生葉と水
をミキサーし、こ
した汁に絹布を



工作の教室のような機織りの会（フェスティバルにて）

ひたします。空気にさらす
と緑色から鮮やかな水色
に変わります。

ミュージアム・フェステ
イバルのさきおり（裂き織
り）体験の材料に使います
（会員 今井恵子 記）

土器作りの会 『来年2月の 土器焼きが 楽しみ』

今年のミュージアム・フ
ェスティバルで小学生に
『土器作り体験』をしてま
らいましょうと計画しま
した。参加者募集を博物館
にお願い致しました。
10組の方々の参加があ
り、会場準備の関係で5
組ずつ分けて土器作りに
挑戦して頂きました。
皆さん一生懸命、手や指
の使い方を覚え、粘土と戦
いながら思い思いの器を
作りました。
来年2月の土器焼きが
楽しみです。
乞うご期待です。



粘土と格闘土器作りの会（フェスティバルにて）

（代表 甲斐恵美子 記）

仏像を学ぶ会 『峯の薬師 拝観して』

去る4月28日（木）若葉
が目にしむ穏やかな日和に
誘われ、木更津市桜井の高台
に有る東光院通称『峯の薬師』
を訪ねました。



12年に一度寅年の春の御
開帳に公開される秘仏は『薬
師瑠璃光如来』立像です。
此の仏像は鎌倉期に製作
された木造りで、鋭彫の等身
大で玉眼が光っています。男
性を思わせる凛々しいお姿
でした。

もとは、請西藩主の祈願寺
でしたが現在は、地域の信仰
の寺として眼病に良いと言
われて、人々で賑わう寺とな

っています。説明して下さつ
た住職の話によると、『何回
か寺の再建修復を重ねてい
るが、創建以来火災にあつて
いなく、祈祷の際の煙で寺内
も薬師様も黒ずんでしまつ
ている』との事でした。
重厚な感じが心にぐつと
来た拝観日でした。

（会員 竹井文子 記）

第164回袖ヶ浦学 『房総の富士講と 富士塚』

高橋 克
江戸川大学教授

11月5日（土）袖ヶ浦学
が根形公民館で開催されま
した。袖博での企画展『富士
山・畏れ・敬い・憧れ』の関
連講座として高橋克・江戸川
大学教授より『房総の富士講
と富士塚』と題して講演会が
あり、会場一杯の方々が聴講
しました。富士講の房総進出
や『山包（やまつみ）講』を
始め講の説明があり又富士
塚を中心とした各地の習俗
等興味深い講演でした。





■ もっと知りたい講座
「巨樹・古木が育つ環境
千葉県の巨樹と森づくり」

千葉県「巨樹・古木ふれあい環境保全
NPO 樹の生命を守る会
樹木医 伊東伴尾

講演 スライド表紙

第2回・もっと知りたい講座 『巨樹・古木が育つ場所 千葉県の巨樹・古木と森づくり』 NPO 法人 樹の生命を守る会 副理事長 伊東 伴尾

12月11日(日)長浦・丘の上図書館にて第2回もつと知りたい講座が開講。講師にNPO 樹の生命を守る会・副理事長 伊東伴尾先生をお招きして日曜日の午後のひと時53名の方々が熱心に聴講した。講演内容は次のとおり。

① 最初に千葉県の巨樹・古木調査の概要を説明された調査は平成15年から16年にかけて行われたものであり、幹周囲3m以上の巨樹201本を調査、『樹種』で多いのは、スギ、イチヨウ、スダジイ、クスノキ、イヌマキ、タブノキ、ケヤキで、巨樹古木の71%は公共機関から指定保護されており、生息地の大半は神社・寺の敷地内にある。又『樹齢』では、香取市・府馬のオオグスで1400年、千葉市・千葉寺の公孫樹1300年、同じく市原市・飯香岡八幡の夫婦銀杏があり、『樹高』では、鴨川市・清澄の大杉、いすみ市・八乙女大杉、君津市・春日大社の大スギなどが続きます。

袖ヶ浦市の巨樹古木といえは『坂戸神社のタブノキ』で樹齢2000年、樹高22m、自然林のなかでの巨木で、樹勢良好だそうです。次は飽富神社のスギ、野里神社のケヤキ等が挙げられ『環境』としては、踏み荒らされていないところで、神社を中心地域コミュニティがしっかりと

② 巨樹古木の『生育環境』として千葉県は、温暖で降水量に恵まれた環境であること。又自由に移動できない植物にとつて土壌は、生育に大きな影響を与える。土壌が良くなければ樹勢も低下し巨木にはならない。樹木にとつて良い土壌とは、土中に空気や水が適度に保有された状態のものをいい、土壌の性能という物があり『土性』といって、土壌の粘土と砂の割合や、『物理性』といって土壌の硬度(硬すぎると土中に空隙がすくなく)とか、保水性、透水性なども重要であり又『科学性』といって土壌酸度といった要素が土壌の性能に係わるとの説明です。

③ 大木の環境維持として大木が育つ、広い上部空間や下部の人止柵、病害虫の予防。近隣住民の保護意識が高いコミュニティの形成が重要とのことでした。

④ イスラエルでの砂漠緑化やトルコでの乾燥地の緑化等の事業指導した際の実例の話等興味深い講演でした(受講 今井 久明 記)

国史跡・山野貝塚 ボランティア活動

国史跡の山野貝塚は、現在生涯学習課で保全活動等されておりありますが、それを支援するボランティア活動には、友の会メンバーからも数名参加しており、現在総勢15名程活動しております。毎月第2日曜日を定例活動日として、現地の草刈りを中心に活動をしており、又ボランティア有志による縄文時代全体の自主学習会も博物館研修室で開催されております。

ボランティアへの参加希望の方は、生涯学習課へ連絡願います。

博物館より お知らせ



◎第17回新春風揚げ会
・日時
R5年1月9日(月祝)
午前10時～午後3時
・場所 袖ヶ浦海浜公園

編集後記

・主催 風の会
◎R4年度企画展Ⅲ
袖ヶ浦の美術Ⅱ
傘寿記念辻本大雲回顧展
・日時
R5年3月25日(土)
～4月16日(日)
・場所 郷土博物館

今年は、杉に縁のある年であった。日光街道の杉並木を歩き、近くは、笠森観音参道の三本杉を仰ぎ、よくぞここまで高く太く育ったものだと思ふ。いままでに希望を与えてくれる杉の木だとも思う。

もつと知りたい講座では、巨樹・古木について学び、改めて樹木を始め自然環境・保全の重要性を認識した。新たなR5年も始まる。気分を若く持ち、体力を維持して新しいことに挑戦すること。友の会がますます賑やかになること。そして、この友の会だよりをもつと情報発信・交換に積極的に活用しようじゃないですか。(編集担当 今井久明 記)